

3.11.4 知財活用推進室

室長 永塚 守 ほか15名

NICTの研究開発成果の社会展開に向けて技術移転を促進

■概要

知財活用推進室は、NICTの研究開発活動の成果を広く社会に展開することを目指して、技術移転等の促進を図るための活動を行っている。発明創出段階における適切な知財の保護から、その活用としての技術移転契約等に結び付けるまで、知財サービスを研究者との連携を取りながら一貫して行うことで、自己収入の拡大及びオープンイノベーションの創出に貢献する。具体的には以下の業務を行っている。

1. 知的財産の適切な管理

- (1) 「特許検討会」における出願、審査請求、維持等の審査及びその結果を踏まえた特許庁への手続きを着実に実施する。
- (2) オープンイノベーション推進本部及び戦略的プログラムオフィスと連携し、「知的財産戦略委員

会」(知財収支の適正化等の検討)の運営への協力・支援を実施する。

2. 技術移転の効果的な推進

- (1) 各研究部署担当の「技術移転コーディネータ」が、研究者と連携を取りながら、技術移転活動を推進する。
- (2) デプロイメント推進部門と連携して、NICT発ベンチャーに対する特許権の実施等の契約締結を実施する。
- (3) 特許の出願、登録、実施、譲渡時の補償金の支払いに係る手続きを実施する。

3. 知財法務の着実な実施

知財実施許諾等の各種契約における交渉・調整業務及び研究所等が締結する共同研究契約等の調整支援業務を

深紫外半導体発光素子	Wi-SUNメッシュモジュール	多言語翻訳
<p>【契機】 研究者／企業連携</p> <p>【技術移転先】 電子機器メーカ</p> <p>【概要】 深紫外LEDの光取出し効率を大幅に向上させることで、小型・高出力な深紫外LED光源を実現した。今回開発した深紫外LEDは、最も殺菌性の高い波長265 nmであり、薬剤を用いないクリーンな殺菌システムの実現が期待される。既存の水銀ランプの置き換えのほか、新規市場の創出も見込まれる。</p> 	<p>【契機】 研究者／企業連携</p> <p>【技術移転先】 システム開発企業</p> <p>【概要】 「Wi-SUN」は、マルチホップによる長距離通信を実現する無線通信方式で、低消費電力が特徴である。農業、防災、交通など、各種データ収集に活用が期待される。今回開発された製品では、マルチホップ通信路の選択アルゴリズムの工夫により、各無線端末の消費電力均一化が図られるという特徴がある。</p> 	<p>【契機】 研究者／企業連携</p> <p>【技術移転先】 翻訳技術開発企業</p> <p>【概要】 NICTの高精度音声認識・翻訳・音声合成技術は、スマートフォン等で利用可能なアプリとして、観光、商業施設、医療分野等で利用されている。現在31言語に対応可能。このほか論文や特許などの長文に強い翻訳システムを必要とする企業や、特許等の文献翻訳会社等でも活用されている。</p> 

図1 平成30年度 技術移転例

着実に実施する。

■平成30年度の成果

1. 知的財産の適切な管理

「知的財産戦略委員会」における検討のため、効果的な外国出願をするための条件整理を行った。また、出願から10年を経過した特許の再評価を着実に実施した。

2. 技術移転の効果的な推進（図1）

- (1) 平成30年度の新規有償実施契約39件(詳細は5.3.1参照)を締結するとともに、知的財産収入18,313万円を達成した。
- (2) 深紫外半導体発光素子の新規ライセンス及び多

言語音声翻訳ソフトウェアのライセンス先の拡大等により、NICTの研究成果の社会実装に貢献した。

- (3) 技術移転活動の活性化に向けた検討に資するため、各研究群の主要な技術移転活動の俯瞰図及び各活動のPR資料の整理・作成を進めた。
- (4) NICTの知的財産、研究データの提供、技術の活用例等の研究成果をWebサイト・展示会等の各種媒体・機会を活用して公開・提供・発信した。

3. 知財法務の着実な実施

知財実施許諾等の各種契約における交渉・調整業務及び研究所等が締結する共同研究契約等の調整支援業務を着実に実施した。